

2010年中国大陸地域の 投資環境とリスク調査（2）

6. 中国「投資リスク」

①中国投資リスク評価指標分析

2010《TEEMA 調査報告》で採用した投資リスクを評価する4項目と指標は、(1)社会リスク（3指標）(2)法制度リスク（8指標）(3)経済リスク（7指標）(4)経営リスク（12指標）の合計30指標である。2010《TEEMA 調査報告》では、評価対象となった100都市について投資リスクの程度を調査したところ、投資リスク評価指数は平均2.256ポイントで、2009年と同じであった。以下では2010《TEEMA 調査報告》の投資リスク評価指数4項目と30指標について投資リスクを説明し、平均的観点と全体的観点から投資リスクを分析する。

1. 社会リスク：2010《TEEMA 調査報告》の評価指数は2.279ポイントで、2009年に比べて0.060ポイント下落した。社会リスクの順位は、2008年から2010年までの3年間、極めて大きく変動している。もともと4項目のうち第3位であったが、2009年には第1位となり、2010年には第4位と大幅に順位を下げた。中国の社会リスクの状況が安定していないため、3年間の変化が極めて大きくなっているのである。しかも、社会リスク3指標の評価指標はいずれも上昇した。これは社会リスクが全体的に悪化していることを意味している。台湾企業が低い評価を与えた3指標は、リスクが高い順（ポイントが低いほど順位が高い）に、(1)「人身、財産の安全が危険に晒される」(2.240ポイント) (2)「従業員の抗議、抗争事件が頻発する」(2.291ポイント) (3)「労使問題又はビジネストラブルの解決が困難」(2.307ポイント)であった。そのうち「人身、財産の安全が危険に晒される」はポイントが大きく上昇し、2009年

比の上昇幅は0.079ポイントとなり、「社会リスク」3指標のうち最も変動幅が大きな指標となった。海峡交流基金会が発表した資料(2010)によると、1991年から2010年5月末まで、中国進出台湾企業が直面した経済・貿易上のトラブルは累計3655件で、そのうち人身の安全に関するものは合計2106件、全体の約52.62%を占めた。次いで多かったのは財産や法益の侵害の合計1549件、42.38%であった。台湾企業の対中投資において、社会リスクを警戒する必要が高まってきており、不必要な問題を回避しなければならないことを示している。

2. 法制度リスク：2010《TEEMA 調査報告》の評価指数は2.207ポイントで、2009年を0.105ポイント下回った。これは、投資リスク4項目の中で最もリスクが低いと評価された側面であった。法制度リスク8指標のうち、リスクが高い3指標は(1)「現地政府が頻繁に行政命令を変更する」(2.251ポイント) (2)「現地政府との協議過程が把握しにくい」(2.226ポイント) (3)「官員の法令・契約・規範に対する執行が一致しない」(2.213ポイント)の順であった。注意すべきは「現地政府が頻繁に行政命令を変更する」が長い間、中国進出台湾企業からの評価が最も低い項目であるということである。2009年は全31指標のうち、最下位となった指標である。中国では法制度が朝令暮改のリスクをはらんでいることを示している。一方、評価が高かった指標は、(1)「経済事件をしばしば刑事方式にて処理する」(2.166ポイント) (2)「現地政府が台湾企業に対し不当なリベートを請求する」(2.182ポイント) (3)「政府の紛争調停、仲裁が台湾企業に不公平である」(2.205ポイント)であった。その多くが現地政府の対応と関係している。リベートの請求や紛争調停などの方面で

中国の現地政府のコントロールが比較的うまく働いており、法制度リスクも年々下降していることを示している。また、中国の地方政府が、積極的に台湾企業に対するサービスの提供に努めていることも関係している。中国の地方政府は、台湾企業の各経済圏への進出を促したり、台湾企業の権益を保障するため、法制度方面のコントロールをより厳しくすると共に、台湾企業に対して様々なサービスを提供している。例えば福建省泉州市惠安县司法局は、一部の台湾企業と「公証法律顧問協定」を締結し、公証人や弁護士、法律サービススタッフを長年に渡って台湾企業へ派遣し、法律顧問としている。また、「台商投資区」には法律支援サービスステーションを設置し、同区に進出している台湾企業やその従業員に対して法律支援を提供したり、彼らからの法律相談を受けたりしながら兩岸交流を促進し、良質で効率の高い法律サービスを提供している。このため中国進出台湾企業の中国の法制度リスクに対する評価は好転している。

3. 経済リスク：2010《TEEMA 調査報告》の評価指数は、投資リスク4項目の第2位となる2.265ポイントであった。2009年の2.229ポイントより、0.036ポイント上回っており、経済リスク上昇の懸念があることを示している。経済リスク7指標を見てみると、2010年のトップ3は、(1)「現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難」(2.320ポイント)(2)「現地の厳格な外貨規制により利潤の送金が困難」(2.287ポイント)(3)「現地政府の費用徴収、寄付金、罰金等の項目が繁雑」(2.282ポイント)であった。特に「現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難」は毎年のように下位にランクインしている。また、2010年のポイントは2009年を上回っており、現地銀行からの資金取得に対する

台湾企業の評価が低くなっていることを示している。一方、評価が高かった指標は、(1)「現地政府が台湾企業に与える優遇政策が実行できない」(2.225ポイント)(2)「現地政府の保護主義が色濃く企業利益に影響」(2.230ポイント)(3)「台湾企業が巻き込まれるビジネストラブルが頻発する」(2.241ポイント)であった。台湾企業は中国の政策や法令の縛りがあり、中国の現地銀行からの資金取得が難しい。しかし、評価が高かった指標を見ると、中国の地方政府は台湾企業に様々な協力や支援をしており、特に優遇政策の実行からも見てとることができる。中国政府は外資に対する承諾を重視しており、それによって更に多くの外資を中国市場に引き付けているのである。

4. 経営リスク：2010《TEEMA 調査報告》の評価指数は2.273ポイントで、2009年と同様、投資リスク4項目における順位は第3位であった。2006年以降のデータを見ると、経営リスクの順位が徐々に上昇していることが分かる。中国進出台湾企業のこの方面に対する重視の度合いが増大し、評価も好転していることを意味している。経営リスク12指標について見ると、リスクが低いと評価された上位5項目は、(1)「現地政府が台湾企業の経営に干渉する」(2.164ポイント)(2)「現地の台湾企業が経済・貿易、税務トラブルで拘留される」(2.194ポイント)(3)「現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい」(2.203ポイント)(4)「貨物の通関時に、現地の税関に行政上の嫌がらせを受ける」(2.214ポイント)(5)「現地の取引先からの供給が不安定である」(2.217ポイント)であった。特に「現地政府が台湾企業の経営に干渉する」は2006年以降、順位を上げており、ついに第1位となった。この方面のリスクが極めて小さく、台湾企業による評価が高いと同時に、地方政府が台湾

企業の経営にあまり干渉しなくなっていることを表している。また、「現地の取引先からの供給が不安定である」は全 30 指標のうち 4 番目に評価ポイントの減少幅が大きかったもので、2009 年比 0.253 ポイントの減少となった。一方、リスクが高いとされたトップ 3 は、(1)「中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない」(2.447 ポイント) (2)「従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁」(2.354 ポイント) (3)「現地で適任人材や従業員を集めるのが困難」(2.345 ポイント) の順だった。この 3 指標は、投資リスク全 30 指標の中でもワースト 3 であり、過去 3 年の調査結果を見ても状況は同じであった。中国進出台湾企業にとって、中国での従業員雇用で直面する問題が、経営リスクの最も困難な部分であることを意味している。特に人の流動や適任人材の募集が問題である。このため、相互作用と相互理解のためのプラットフォームの確立と、管理者による多文化管理が必要となっている。

5. 投資リスク全体：2010《TEEMA 調査報告》の評価指数は、2009 年と同じ 2.256 ポイントであった。2008 年から現在に至るまで投資リスクを構成する各項目の全体的な評価ポイントは下降傾向にある。中国の投資リスクが徐々に改善され、台湾企業の評価は好転しているが、投資リスクを評価する 4 項目の順位には依然大きな変動がある。2010 年の順位は、(1)「法制度リスク (2.207 ポイント)」(2)「経済リスク (2.265 ポイント)」(3)「経営リスク (2.273 ポイント)」(4)「社会リスク (2.279 ポイント)」であった。そのうち「社会リスク」は 2009 年の第 1 位から、2010 年は第 4 位に転落した。それだけでなく、海峡交流基金会の統計 (2010) によると、2009 年に中国で台湾企業が巻き込まれたビジネストラブルは通年 796 件で、2008 年に

比べて 254 件の増加、過去最高となった。台湾企業による対中投資は、投資リスクのみならず、自身に降りかかるリスクにも注意しなければならないのである。

6. 投資リスクの歴代ランキングの変化：2010《TEEMA 調査報告》では、投資リスク全 30 指標について、2006 年から 2010 年までの順位を比較分析した。経営リスクを構成する「現地企業の信用がなく、負債を催促しづらい」「現地で適任人材や従業員を集めるのが困難」の 2 指標は、2006 年から 2010 年までの 5 年間、常にワースト 10 入り（リスクが高い上位 10 項目）している。また、「中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない」「従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁」「従業員の道徳・倫理観が台湾企業の経営に損失を与える」は投資リスクのワースト 5 に入っている。これは、台湾企業が中国での経営において、従業員の任用や企業の信頼の方面で、依然として大きな懸念を抱いていることを示している。また、社会リスクを構成する「従業員の抗議、抗争事件が頻発する」「労使問題又はビジネストラブルの解決が困難」の 2 指標も年々順位が上昇しており、2009 年と 2010 年はいずれもワースト 10 に入っている。これは、現地の労働者意識の向上と、近年多発している労働者不足やストライキ事件の影響によって、台湾企業による評価が低くなっていることを意味している。一方、「経済事件をしばしば刑事方式にて処理する」はこの 5 年間、いずれもベスト 10 以内を維持している。その他「現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい」「現地政府が台湾企業に対し不当なリベートを請求する」「現地政府が台湾企業の経営に干渉する」「人身、財産の安全が危険に晒される」も、2006 年から 2010 年までベスト 5 の低リスク指標となっている。

②中国投資リスクの比較分析

2010年の調査では、投資リスクを全30指標によって評価した。そして、2009年と2010年の中国投資リスクの比較を投資リスク4項目から行い、更に4項目について差異分析を行った。結果とランキングの変化は表10で示すとおりである。

1. 全30指標：2010《TEEMA調査報告》の投資リスク全30指標の評価結果について見ると、2009年より改善したのは4指標で、全30指標の13.33%を占めた。2009年より改善した4指標は、「現地政府が頻繁に行政命令を変更する」「台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される」「現地政府との協議過程が把握しにくい」「現地の取引先からの供給が不安定である」で、2009年と同じだったのは「現地の厳格な外貨規制により利潤の送金が困難」の1指標であった。残る25指標は、リスク指標がいずれも上昇した。これは、中国進出台湾企業の対中投資リスクに対する潜在的な懸念が増加していることを示している。

2. 全30指標の差異：2010《TEEMA調査報告》と2009年の結果との差異を分析すると、リスク評価指数の下降幅が大きかったのは法制度リスク指標の「現地政府が頻繁に行政命令を変更する」「台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される」「現地政府との協議過程が把握しにくい」、経営リスク指標の「現地の取引先からの供給が不安定である」であった。一方、社会リスク指標の「人身、財産の安全が危険に晒される」はリスク評価指数の上昇幅が最大であった。中国では2010年に入って政府の法制度環境が安定傾向にあるものの、社会リスクは悪化していることを意味している。

3. ベスト10の順位変化：2010《TEEMA調査報告》の投資リスクのベスト3は、2009年の結果と同じであった。これは、中国が台湾企業に与える経営の自由の程度が一定水準に達しており、法制度リスクも下降していることを意味している。また、ベスト10のうち、最も注目すべきは第7位となった法制度リスク指標の「台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される」であり、これは2009年の第29位に比べて大幅な上昇となった。中国政府が台湾企業に対して与えた土地使用権承諾が、容易には撤回されないようになっていること、そして台湾企業に対する中国政府の重視の程度が上昇していることを意味している。

4. ワースト10の順位変化：2010《TEEMA調査報告》でリスクが高い第1位だったのは経営リスク指標の「中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない」であった。これは2010年に追加した新たな指標である。近年、中国政府は大量の資源を中国企業に投入している。これに比べると、台湾企業が得ている支援は比較的少ない。また、順位を大きく下げたのは、第25位となった社会リスク指標の「労使問題又はビジネストラブルの解決が困難」で、順位を7位下げた。さらに、「従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁」(2.354ポイント)はリスクが高い第2位、「現地で適任人材や従業員を集めるのが困難」が同3位であった。最近の中国における従業員不足の状況に合致しており、また中国での従業員募集と雇用の難しさを顕著に表している。

5. 投資リスク4項目：2010《TEEMA調査報告》の投資リスク4項目についての順位は、リスクが低いとされた順に、(1)法制度リスク(2)経済リスク(3)経営リスク(4)社会リスクであった。

表 10 2009-10 《TEEMA 調査報告》投資リスクの差異とランキング変化

投資リスク項目と指標	2010 評価点	2009 評価点	2009-10 差異分析	順位		
				▲	▼	-
社会-01) 従業員の抗議、抗争事件が頻発する	2.291	2.255	0.036	14	-	-
社会-02) 労使問題又はビジネストラブルの解決が困難	2.307	2.254	0.053	07	-	-
社会-03) 人身、財産の安全が危険に晒される	2.240	2.161	0.079	01	-	-
法制-01) 現地政府が頻繁に行政命令を変更する	2.251	2.663	-0.412		01	-
法制-02) 台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される	2.205	2.520	-0.315		02	-
法制-03) 官員の法令・契約・規範に対する執行が一致しない	2.213	2.181	0.032	17	-	-
法制-04) 現地政府との協議過程が把握しにくい	2.226	2.520	-0.294	-	03	-
法制-05) 政府の紛争調停、仲裁が台湾企業に不公平である	2.205	2.170	0.035	16	-	-
法制-06) 機関が司法及び仲裁結果を効果的に執行できない	2.210	2.187	0.023	20	-	-
法制-07) 現地政府が台湾企業に対し不当なリベートを請求する	2.182	2.130	0.052	08	-	-
法制-08) 経済事件をしばしば刑事方式にて処理する	2.166	2.121	0.045	10	-	-
経済-01) 現地の厳格な外貨規制により利潤の送金が困難	2.287	2.287	0.000	-	-	01
経済-02) 現地政府が地方税制政策を頻繁に変更する	2.270	2.256	0.014	22	-	-
経済-03) 現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難	2.320	2.288	0.032	17	-	-
経済-04) 現地政府が台湾企業に与える優遇政策が実行できない	2.225	2.164	0.061	04	-	-
経済-05) 台湾企業が巻き込まれるビジネストラブルが頻発する	2.241	2.200	0.041	12	-	-
経済-06) 現地政府の保護主義が色濃く企業利益に影響	2.230	2.192	0.038	13	-	-
経済-07) 現地政府の費用徴収、寄付金、罰金等の項目が繁雑	2.282	2.213	0.069	03	-	-
経営-01) 水道、電気、ガス等のエネルギー供給が不安定である	2.242	2.199	0.043	11	-	-
経営-02) 現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい	2.203	2.147	0.056	06	-	-
経営-03) 現地の取引先からの供給が不安定である	2.217	2.470	-0.253	-	04	-
経営-04) 現地企業の信用がなく、負債を催促しづらい	2.314	2.296	0.018	21	-	-
経営-05) 従業員の道徳・倫理観が台湾企業の経営に損失を与える	2.303	2.299	0.004	24	-	-
経営-06) 現地で適任人材や従業員を集めるのが困難	2.345	2.294	0.051	09	-	-
経営-07) 従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁	2.354	2.348	0.006	23	-	-
経営-08) 現地で企業を運営するための人脈維持コストが高すぎる	2.281	2.245	0.036	14	-	-
経営-09) 現地政府が台湾企業の経営に干渉する	2.164	2.091	0.073	02	-	-
経営-10) 現地の台湾企業が経済・貿易、税務トラブルで拘留される	2.194	2.166	0.028	19	-	-
経営-11) 貨物の通関時に、現地の税関に行政上の嫌がらせを受ける	2.214	2.158	0.056	05	-	-
経営-12) 中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない	2.447	-	-	-	-	-

表 11 2010《TEEMA 調査報告》投資リスク指標ベスト 10

投資リスク指標ベスト 10	2010		2009	
	評価点	順位	評価点	順位
経営-09) 現地政府が台湾企業の経営に干渉する	2.164	01	2.091	01
法制-08) 経済事件をしばしば刑事方式にて処理する	2.166	02	2.121	02
法制-07) 現地政府が台湾企業に対し不当なりべートを請求する	2.182	03	2.130	03
経営-10) 現地の台湾企業が経済・貿易、税務トラブルで拘留される	2.194	04	2.166	08
経営-02) 現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい	2.203	05	2.147	04
法制-05) 政府の紛争調停、仲裁が台湾企業に不公平である	2.205	06	2.170	09
法制-02) 台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される	2.205	07	2.520	29
法制-06) 機関が司法及び仲裁結果を効果的に執行できない	2.210	08	2.187	11
法制-03) 官員の法令・契約・規範に対する執行が一致しない	2.213	09	2.181	10
経営-11) 貨物の通関時に、現地の税関に行政上の嫌がらせを受ける	2.214	10	2.158	05

2009年と比べると、社会リスクと法制度リスクの順位が入れ替わった。また、全体のリスク指数は全面的に上昇傾向にあり、年度の投資リスク指数は0.001ポイントの上昇となった。そのうち社会リスクの上昇幅は0.060ポイントで最大となった。

表 11 は 2010《TEEMA 調査報告》投資リスク指標ベスト 10 の結果である。投資リスク指標ベスト 10 は、(1)現地政府が台湾企業の経営に干渉する(2)経済事件をしばしば刑事方式にて処理する(3)現地政府が台湾企業に対し不当なりべートを請求する(4)現地の台湾企業が経済・貿易、税務トラブルで拘留される(5)現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい(6)政府の紛争調停、仲裁が台湾企業に不公平である(7)台湾企業が合法的に取得した土地使用権承諾が違反される(8)機関が司法及び仲裁結果を効果的に執行できない(9)官員の法令・契約・規範に対する執行が一致しない(10)貨物の通関時に、現地の税関に行政上の嫌がらせを受けるとなっている。2009年と2010年の2年連続でベスト 10 入りした指標は、「現地

政府が台湾企業の経営に干渉する」「経済事件をしばしば刑事方式にて処理する」「現地政府が台湾企業に対し不当なりべートを請求する」「現地の台湾企業が経済・貿易、税務トラブルで拘留される」「現地の物流、運輸、道路交通状況の把握が難しい」「政府の紛争調停、仲裁が台湾企業に不公平である」「官員の法令・契約・規範に対する執行が一致しない」「貨物の通関時に、現地の税関に行政上の嫌がらせを受ける」の合計 8 指標であった。

表 12 は 2010《TEEMA 調査報告》投資リスク指標ワースト 10 の結果と、2009年の順位と評価点を示している。投資リスク指標指数(評価点)が高い順番に、(1)中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない(2)従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁(3)現地で適任人材や従業員を集めるのが困難(4)現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難(5)現地企業の信用がなく、負債を催促しづらい(6)労使問題又はビジネストラブルの解決が困難(7)従業員の道徳・倫理観が台湾企業の経営に損失を与える(8)従業員の抗議、抗争事件が頻発する(9)現地の厳格な外貨規制に

表 12 2010《TEEMA 調査報告》投資リスク指標ワースト 10

投資リスク指標ワースト 10	2010		2009	
	評価点	順位	評価点	順位
経営-12) 中国企業と台湾企業に対する待遇が平等ではない	2.447	01	-	-
経営-07) 従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁	2.354	02	2.348	05
経営-06) 現地で適任人材や従業員を集めるのが困難	2.345	03	2.294	08
経済-03) 現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難	2.320	04	2.288	09
経営-04) 現地企業の信用がなく、負債を催促しづらい	2.314	05	2.296	07
社会-02) 労使問題又はビジネストラブルの解決が困難	2.307	06	2.254	13
経営-05) 従業員の道徳・倫理観が台湾企業の経営に損失を与える	2.303	07	2.299	06
社会-01) 従業員の抗議、抗争事件が頻発する	2.291	08	2.255	12
経済-01) 現地の厳格な外貨規制により利潤の送金が困難	2.287	09	2.287	10
経済-07) 現地政府の費用徴収、寄付金、罰金等の項目が繁雑	2.282	10	2.213	15

より利潤の送金が困難(10)現地政府の費用徴収、寄付金、罰金等の項目が繁雑、であった。2009年と2010年の2年連続でワースト10入りした指標は、「従業員の忠誠心不足により、人の流動が頻繁」「現地で適任人材や従業員を集めるのが困難」「現地の銀行からの資金調達や資金取得が困難」「現地企業の信用がなく、負債を催促しづらい」「従業員の道徳・倫理観が台湾企業の経営に損失を与える」「現地の厳格な外貨規制により利潤の送金が困難」の合計6指標であった。

③中国都市別投資リスク

2010《TEEMA 調査報告》では、評価対象となった100都市について都市別の投資リスクを分析した。その結果について以下説明する。

1. 都市別投資リスクのベスト10: 2010《TEEMA 調査報告》がまとめた都市別投資リスクのベスト10は、リスクが低い順に、(1)蘇州昆山(2)上海閔行(3)天津浜海(4)南京江寧(5)杭州蕭山(6)青島(7)南昌(8)蘇州工業区(9)アモイ島外(10)

蘇州市区である。そのうち、2009年と2010年のいずれもベスト10入りした都市は、蘇州昆山、上海閔行、南京江寧、青島、南昌、蘇州工業区、アモイ島外の7都市である。投資リスク評価において優良都市の上位都市にあまり変化がないことを示している。特に江蘇省の都市は常連で、近年、重点都市はほとんどベスト10から外れることがない。中でも蘇州昆山は2年連続のランクインとなった。また、上海閔行は2009年の第9位から、2010年は第2位にランクを上げた。上海閔行は投資リスクを評価する4項目でも、いずれも高い評価となっている。一方、天津浜海は2009年の第14位から、2010年は第3位に大幅にランクを上げたものの、投資リスクを評価する4項目から分析すると、社会リスクが第12位と理想的ではなかった。但し、その他の3項目の評価は良好であった。

2. 都市別投資リスクのワースト 10: 2010《TEEMA 調査報告》がまとめた都市別投資リスクのワースト 10 は、リスクが高い順に、(1) 蘭州(2)ハルピン(3)宜昌(4)長春(5)深圳龍崗(6)北海(7)貴陽(8)深圳宝安(9)太原(10)江門である。2009 年と 2010 年のいずれもワースト 10 入りした都市は、蘭州、ハルピン、宜昌、長春、深圳龍崗、太原の 6 都市である。これらの都市は、台湾企業の対中投資においては第二線または第三線の都市に属し、台湾企業による投資も比較的少ない。また、蘭州は 2 年連続で投資リスクワースト第 1 位となったが、中国の西部大開発計画により、甘粛省に位置する蘭州市の投資環境も改善されることが期待される。

④中国地区別投資リスク

2010《TEEMA 調査報告》では、中国の 7 経済地区について投資リスクの順位を分析した。結果は表 13 に示すとおり、(1)華東地区(2)華北地区(3)華南地区(4)西南地区(5)華中地区(6)東北地区(7)西北地区の順であった。

7. 中国「台湾企業の推薦度」

2010《TEEMA 調査報告》は、「都市競争力」と「投資環境力」という「両力(2つの力)」と「投資リスク度」と「台湾企業の推薦度」の「両度(2つの度)」の評価モデルを使い、台湾企業の観点か

ら中国の都市競争力についての調査を行った。そのうち「台湾企業の推薦度」の主要な評定目的は、すでに中国で投資を行っている台湾企業の親会社を対象に調査を行い、過去におけるその都市での全体的な投資環境と投資リスクについて評価することにある。つまり、すでにその都市で投資を行っている台湾企業の観点を今後対中投資を検討している台湾企業に判断材料として提供するというものである。「台湾企業の推薦度」に関する指標は、2005《TEEMA 調査報告》において、台湾企業の実際の体験をより反映すべく、(1)都市競争力(2)都市環境力(3)投資リスク(4)都市発展潜在力(5)投資収益(6)国内取引と国内販売市場開拓の 6 項目に拡大された。2006《TEEMA 調査報告》では、学者や専門家、台湾企業協会の会長らと議論した結果、評定指標の幅を更に広げ、「台湾企業の推薦度」指標が 10 項目に拡大された。つまり(1)都市競争力(2)投資環境力(3)投資リスク(4)都市発展潜在力(5)投資収益(6)国際化のレベル(7)台湾企業の権益保護(8)政府行政の効率(9)内需市場の展望(10)全体的なライフ・クオリティーである。2010《TEEMA 調査報告》でもこの指標を使い、中国の 100 都市について、台湾企業が推薦する都市ランキングを完成させた。

2010《TEEMA 調査報告》では、すでに対中投資を行っている 2,618 の台湾企業を対象に調査を行った。その結果を 2010 年の台湾企業の推薦都

表 13 2010《TEEMA 調査報告》中国地区別投資リスク順位

投資環境	華東地区	華北地区	華南地区	西南地区	華中地区	東北地区	西北地区
①社会リスク	2.071	2.169	2.428	2.402	2.407	2.739	3.189
②法制度リスク	1.998	2.049	2.347	2.333	2.374	2.781	3.104
③経済リスク	2.049	2.121	2.404	2.404	2.418	2.898	3.096
④経営リスク	2.088	2.088	2.409	2.396	2.409	2.859	3.105
リスク評価点	2.052	2.107	2.397	2.384	2.402	2.819	3.124
リスク順位	1	2	3	4	5	6	7

市ランキングに示した。分析結果の要点は以下のとおり。

1. 推薦度ベスト 10：2010《TEEMA 調査報告》の結果が示すとおり、台湾企業の推薦度ベスト 10 に選ばれた都市は、推薦度が高い順に、(1)蘇州 昆山(2)南昌(3)重慶(4)無錫江陰(5)蘇州工業区(6)南京江寧(7)成都(8)寧波市区(9)揚州(10)天津 滨海新区である。2009 年と 2010 年の 2 年連続でランク入りしたのは、蘇州 昆山、南昌、重慶、無錫江陰、蘇州工業区、成都、揚州の 7 都市である。蘇州 昆山は 2008 年に第 1 位に躍り出たが、その後 3 年連続でこれを維持している。理由としては、昆山政府が台湾企業の産業の転換と高度化を支援するために必要な資金を提供し、担保貸付制度を設立したことや、現地に進出する台湾企業を対象に構造転換を奨励する講座を開くなどして台湾企業を支援し、多くの台湾企業がその恩恵に預かっていることが挙げられる。また、昆山政府の政策執行に対する信頼度が高く、約束が実現される可能性が高いことも、台湾企業による高い評価を受けている理由の一つである。これらのことから、長期に渡ってそのビジネスフレンドリーな理念を実行し、例えば、投資環境の整備、投資リスクの低減、法制度完備等、国際社会との足並みをそろえ、台湾企業の投資権益を保障するなどして、台湾企業の高い支持と評価を受け続けることが、評価の向上につながるのだと言えるだろう。

2. 推薦度ワースト 10：2010《TEEMA 調査報告》の結果によると、台湾企業による推薦度でワースト 10 に選ばれた都市は、推薦度が低い順に、(1)蘭州(2)ハルピン(3)長春(4)宜昌(5)太原(6)貴陽(7)江門(8)深圳龍崗(9)北海(10)深圳 宝安である。2009 年と 2010 年の 2 年連続でワースト 10 入りした都市は、蘭州、ハルピン、長春、

太原、江門、深圳龍崗、深圳 宝安の 7 都市である。そのうち蘭州は 2 年連続でワースト 1、ハルピンは 2 年連続でワースト 2 に選ばれた。その原因は、既存の欠点が改善されていない、又は改善の力が足りていないことにある。例えば (1)地理的な位置が良くない(2)専門の人材が不足している(3)経済基盤が不完全である(4)金融市場の構造が不健全であるといった原因がある。辺境地の発展はやや遅れているものの、どの地方政府も台湾企業のためにより良い投資環境を作り上げるために努力している。例えば 2010 年 2 月 20 日に開かれた 2010 年專案建設提速年動員大会(2010 年建設加速年プロジェクト動員大会)では建設大提速動員令(建設大加速動員令)を出し、「北躍・南拓・中興・強県」(北への飛躍、南への開拓、中間部の振興、県の強化)の発展戦略が打ち出された。2010 年度の投資額 900 億人民元以上を目指し、かつハルピンの社会経済を活性化するために 560 項目の建設を行い、「好發展、快發展、大發展(良好な發展、快速な發展、大きな發展)」という目標を達成することを盛り込んでいる。蘭州市でも 2010 年 6 月 2 日、蘭州市委常委、統戦部部長である段英茹氏が市委統戦部、蘭州市台湾弁公室などの責任者と共に台湾企業を訪問し、台湾企業の投資環境の改善に全力を尽くし、より多くの台湾企業による対蘭州投資を促したいと強調した。

3. 台湾企業の推薦度 10 項目：2010《TEEMA 調査報告》は、台湾企業の推薦度 10 指標について分析した。全体的な推薦度で第 1 位だった蘇州 昆山は、10 指標で見ても「国際化のレベル(4.437 ポイント)」と「全体的なライフ・クオリティー(4.533 ポイント)」の 2 指標が、2010 年に評価対象となった 100 都市のトップであった。蘇州 昆山の成功の鍵は、留学帰りの人材を

導入したり、海外での人材訓練を実施したりと、積極的に国際化のための人材を育成し、地縁の優位性を利用し、かつての農業都市から工商業都市への発展を実現したことにある。また推薦度で第2位の南昌は、昆山の発展に追随している。環境資源、地域の優位性と生産コスト要因等の特徴を利用し、積極的に生産拠点を作り、既存の産業を企業誘致の基礎とし、積極的に外来企業と中国経済や文化の相互融合的発展を促進している。また、台湾企業の中国北部や西部への進出のために保障を提供している。このため南昌は「都市競争力(4.588ポイント)」「投資環境力(4.676ポイント)」「投資リスク(4.706ポイント)」「台湾企業の権益保護(4.515ポイント)」「政府行政の効率(4.515ポイント)」「内需市場の展望(4.576ポイント)」の6指標が、100都市のトップとなった。

8. 中国「都市総合実力」

2010《TEEMA 調査報告》では引き続き、過去の《TEEMA 調査報告》で用いた(1)都市競争力(2)投資環境力(3)投資リスク(4)台湾企業の推薦度の「両力両度(2つの力と2つの度)」という4項目を用いて、今年度の評価対象となった100都市について調査を行った。計算の方式は、各都市の本4項目に関する調査結果で得られた点数を高いものから順番に並べ、それを百分位数に換算して加重計算をする。そのうち「都市競争力」だけが20.00~99.99の百分位数を加重計算する以外、残る3項目はいずれも1.00~99.99の百分位数を加重計算する。次に、それぞれの構成概念の比重を掛け、4項目の点数を総合して順位を出した。こうして最終的に各都市の「都市総合実力」の総合評価点と順位を得た。「両力両度」概念の比重は、(1)都市競争力(15%) (2)投資環境力(40%) (3)投資リスク(30%) (4)台湾企業の推薦度(15%)である。

①中国の都市総合実力の順位

これによって算出された2010年の中国「都市総合実力」の順位は表14が示すとおりである。つまり、25点ごとにランクを設け、「都市総合実力」の点数によって「都市別推薦ランク」に分割し、過去の《TEEMA 調査報告》で用いた方法で、推薦のランクを4つに分けた。内訳は、(1)76点以上の【A】ランク都市。いわゆる「極力推薦する都市」。(2)51点から75点の【B】ランク都市。いわゆる「推薦価値のある都市」。(3)26点から50点の【C】ランク都市。いわゆる「やや推薦する都市」。(4)25点以下の【D】ランク都市。いわゆる「しばらくは推薦しない都市」、である。2010《TEEMA 調査報告》で評価対象となった100都市の【A】【B】【C】【D】の推薦ランク分類は、表14が示すとおりである。

2010《TEEMA 調査報告》の中国「都市総合実力」の評価結果が示すように、2010年のベスト10は、(1)蘇州昆山(2)天津滨海新区(3)南京江寧(4)南昌(5)上海閔行(6)蘇州工業区(7)杭州蕭山(8)重慶(9)青島(10)アモイ島外である。一方、ワースト10は、(1)蘭州(2)宜昌(3)ハルピン(4)北海(5)貴陽(6)長春(7)太原(8)江門(9)蘇州龍崗(10)深圳宝安である。

②産業別都市総合実力ランキング

2010《TEEMA 調査報告》は、産業をハイテク産業、従来型産業、サービス産業の3つに分け、更に産業別都市総合実力ランキングを出した。各産業のトップ10都市は表15が示すとおりである。ハイテク産業のトップ3は(1)蘇州昆山(2)天津滨海新区(3)南京江寧であり、従来型産業は(1)蘇州昆山(2)杭州蕭山(3)南昌であった。サービス産業は(1)上海市区(2)蘇州市区(3)南京市区の順であった。上海は中国の五大中心都市の一つである。中国政府は2009年4月、上海市を2020年までに国際金融センターと国際交通中樞ターミナル

表 14 2010《TEEMA 調査報告》中国都市総合実力の順位

順位	都 市	省 市	区域	①都市競争力		②投資環境力		③投資リスク		④台湾企業推薦度		都市総合力					
				加重評価点	順位	加重評価点	百分位数	順位	加重評価点	百分位数	順位	加重評価点	百分位数	順位	総合評価点	順位	ランク
1	蘇州昆山	江蘇省	華東	83.114	08	4.337	98.440	01	1.705	99.640	01	4.495	98.588	01	96.523	A01	極力推薦する都市
2	天津浜海	天津市	華北	92.874	01	4.190	93.941	05	1.779	96.240	03	4.265	87.027	10	93.433	A02	
3	南京江寧	江蘇省	華東	81.444	13	4.221	96.190	04	1.779	95.890	04	4.330	90.914	06	93.097	A03	
4	南 昌	江西省	華中	60.049	33	4.254	97.540	03	1.810	94.541	07	4.512	97.629	02	91.030	A04	
5	上海閩行	上海市	華東	89.062	04	4.083	90.241	07	1.766	97.290	02	4.208	82.480	14	91.015	A05	
6	蘇州工業区	江蘇省	華東	83.114	08	4.072	88.491	10	1.825	93.541	08	4.410	94.976	05	90.172	A06	
7	杭州蕭山	浙江省	華東	85.637	05	4.073	87.491	11	1.816	94.791	05	4.213	82.419	15	88.642	A07	
8	重 慶	重慶市	西南	82.835	09	4.092	91.091	06	2.000	78.642	19	4.468	97.298	03	87.049	A08	
9	青 島	山東省	華北	81.104	14	4.021	83.992	12	1.801	94.641	06	4.240	84.690	11	86.858	A09	
10	アモイ島外	福建省	華南	62.228	31	3.988	82.942	13	1.828	93.241	09	4.197	80.724	18	82.592	A10	
11	蘇州市区	江蘇省	華東	83.114	08	3.956	78.392	16	1.872	91.391	10	4.097	74.339	27	82.392	A11	
12	成 都	四川省	西南	81.514	12	3.920	76.692	22	1.972	83.292	14	4.275	88.696	07	81.196	A12	
13	無錫江陰	江蘇省	華東	74.765	18	3.945	76.892	21	1.975	81.892	15	4.430	96.175	04	80.965	A13	
14	寧波市区	浙江省	華東	77.145	15	4.103	89.841	08	2.082	65.044	37	4.288	88.356	08	80.275	A14	
15	南京市区	江蘇省	華東	81.444	13	3.957	79.142	15	1.957	84.142	13	4.086	69.635	39	79.561	A15	
16	上海市区	上海市	華東	89.062	04	4.400	98.390	02	2.112	60.394	41	3.877	56.127	49	79.253	A16	
17	濟 南	山東省	華北	73.288	19	3.921	75.292	27	1.927	87.891	12	4.092	72.415	34	78.340	A17	
18	揚 州	江蘇省	華東	53.924	40	4.078	89.241	09	2.046	70.843	26	4.283	87.608	09	78.179	A18	
19	寧波北侖	浙江省	華東	77.145	15	3.925	76.242	23	2.003	77.592	20	4.150	81.444	17	77.563	A19	
20	北京亦莊	北京市	華北	92.443	02	3.937	75.792	25	2.044	73.243	23	4.058	70.398	38	76.716	A20	
21	大 連	遼寧省	東北	81.625	11	3.968	80.342	14	2.017	74.693	22	3.971	64.469	44	76.459	A21	
22	蘇州新区	江蘇省	華東	83.114	08	3.827	65.643	35	1.994	80.442	17	4.228	84.487	12	75.530	A22	
23	杭州市区	浙江省	華東	85.637	05	3.930	74.543	28	2.058	69.343	29	4.164	79.733	21	75.425	A23	
24	アモイ島内	福建省	華南	62.228	31	3.948	77.792	18	2.011	75.892	21	4.192	79.799	20	75.189	A24	
25	威 海	山東省	華北	50.018	43	3.896	72.593	29	1.872	90.941	11	4.094	72.305	36	74.668	B01	
26	煙 台	山東省	華北	69.309	24	3.953	77.892	17	2.047	73.093	24	4.060	69.507	40	73.907	B02	
27	徐 州	江蘇省	華東	53.768	41	3.884	72.543	30	1.975	81.442	16	4.092	73.062	30	72.474	B03	
28	淮 安	江蘇省	華東	41.883	51	3.941	77.492	19	2.006	80.192	18	4.091	74.245	28	72.474	B04	
29	無錫市区	江蘇省	華東	74.765	18	3.928	75.942	24	2.083	65.793	36	4.100	73.270	29	72.320	B05	
30	蘇州吳江	江蘇省	華東	83.114	08	3.891	71.243	31	2.070	66.293	35	4.091	72.352	35	71.705	B06	
31	鎮 江	江蘇省	華東	49.481	44	3.917	75.342	26	2.025	72.943	25	4.150	77.911	23	71.129	B07	
32	南 通	江蘇省	華東	66.379	25	3.851	67.743	32	2.048	70.643	27	4.191	81.840	16	70.523	B08	
33	日 照	山東省	華北	35.426	61	3.956	77.342	20	2.042	69.143	30	4.153	79.993	19	68.993	B09	
34	上海浦東	上海市	華東	89.062	04	3.863	66.293	34	2.078	63.844	38	4.031	66.266	43	68.970	B10	
35	蘇州太倉	江蘇省	華東	83.114	08	3.846	66.393	33	2.111	59.944	42	4.104	75.011	26	68.259	B11	
36	蘇州張家港	江蘇省	華東	83.114	08	3.817	63.844	38	2.136	53.645	48	4.107	76.602	24	65.588	B12	
37	泰 安	山東省	華北	46.351	48	3.821	65.344	36	2.073	66.943	32	4.106	75.874	25	64.554	B13	
38	寧波慈溪	浙江省	華東	77.145	15	3.688	50.295	49	2.058	68.793	31	4.101	72.717	32	63.235	B14	
39	合 肥	安徽省	華中	65.058	27	3.817	63.144	40	2.133	57.244	43	4.055	70.997	37	62.839	B15	
40	廊 坊	河北省	華北	40.915	52	3.820	63.944	37	2.103	61.294	40	4.168	78.232	22	61.838	B16	
41	北京市区	北京市	華北	92.443	02	3.616	44.096	55	2.077	66.393	34	4.036	68.203	42	61.653	B17	
42	連雲港	江蘇省	華東	38.531	57	3.805	63.394	39	2.030	70.593	28	3.952	61.447	45	61.532	B18	
43	広州天河	広東省	華南	91.237	03	3.772	60.994	42	2.180	49.195	52	3.879	54.828	50	61.066	B19	
44	寧波奉化	浙江省	華東	77.145	15	3.736	54.945	44	2.161	51.995	51	4.092	72.725	31	60.057	B20	
45	保 定	河北省	華北	50.228	42	3.805	61.544	41	2.141	53.495	49	4.093	72.556	33	59.084	B21	
46	常 州	江蘇省	華東	62.096	32	3.736	55.395	43	2.090	62.494	39	3.880	57.165	48	58.795	B22	
47	上海松江	上海市	華東	89.062	04	3.732	54.795	45	2.194	46.495	59	3.920	57.914	47	57.913	B23	
48	杭州餘杭	浙江省	華東	85.637	05	3.688	50.595	48	2.135	55.445	45	3.806	50.099	61	57.232	B24	
49	嘉興市区	浙江省	華東	56.320	36	3.738	54.645	46	2.134	56.994	44	3.937	60.581	46	56.491	B25	
50	上海嘉定	上海市	華東	89.062	04	3.593	42.796	57	2.134	55.395	46	3.883	54.151	52	55.219	B26	

表 14 2010《TEEMA 調査報告》中国都市総合実力の順位（続き）

順位	都 市	省 市	区域	①都市競争力		②投資環境力			③投資リスク			④台湾企業推薦度			都市総合力		
				加重評価点	順位	加重評価点	百分位数	順位	加重評価点	百分位数	順位	加重評価点	百分位数	順位	総合評価点	順位	ランク
51	無錫宜興	江蘇省	華東	74.765	18	3.648	46.995	52	2.066	66.593	33	3.583	32.552	86	54.874	B27	
52	石家莊	河北省	華北	62.248	30	3.661	49.595	50	2.228	40.196	63	4.188	84.392	13	53.893	B28	
53	武漢漢口	湖北省	華中	85.235	06	3.583	39.446	62	2.181	48.245	55	4.048	68.961	41	53.381	B29	
54	武漢漢陽	湖北省	華中	85.235	06	3.629	45.745	53	2.186	46.695	58	3.855	52.044	59	52.899	B30	
55	武漢武昌	湖北省	華中	85.235	06	3.595	42.396	58	2.200	46.945	57	3.830	53.076	54	51.789	B31	
56	嘉興嘉善	浙江省	華東	56.320	36	3.655	47.845	51	2.150	52.895	50	3.853	52.293	58	51.298	B32	
57	泰州	江蘇省	華東	48.185	45	3.717	53.545	47	2.183	48.845	53	3.855	52.648	57	51.196	B33	
58	鄭州	河南省	華中	72.406	20	3.608	43.446	56	2.187	47.295	56	3.853	52.772	56	50.344	B34	
59	福州市区	福建省	華南	65.157	26	3.575	36.946	68	2.144	54.145	47	3.724	42.695	70	47.200	C01	
60	寧波餘姚	浙江省	華東	77.145	15	3.573	40.696	59	2.267	37.446	64	3.713	44.689	68	45.787	C02	
61	紹興	浙江省	華東	59.011	35	3.574	39.846	61	2.213	42.896	62	3.783	48.065	64	44.869	C03	
62	蘇州常熟	江蘇省	華東	83.114	08	3.541	34.297	71	2.276	35.796	67	3.809	49.872	62	44.406	C04	
63	泉州	福建省	華南	64.406	29	3.571	38.296	65	2.279	36.946	65	3.846	53.592	53	44.102	C05	
64	桂林	広西	西南	38.023	59	3.567	37.996	66	2.179	48.395	54	3.835	52.944	55	43.362	C06	
65	東莞虎門	広東省	華南	64.640	28	3.487	28.097	75	2.213	43.896	60	3.703	40.388	71	40.162	C07	
66	東莞長安	広東省	華南	64.640	28	3.591	40.696	59	2.356	27.797	76	3.604	33.409	83	39.325	C08	
67	南寧	広西	西南	55.528	37	3.579	38.496	64	2.371	27.697	77	3.740	43.218	69	38.520	C09	
68	珠海	広東省	華南	47.212	46	3.529	31.747	72	2.265	36.696	66	3.806	50.859	60	38.418	C10	
69	天津市区	天津市	華北	92.874	01	3.343	17.548	86	2.340	31.097	71	3.804	49.430	63	37.694	C11	
70	福州馬尾	福建省	華南	65.157	26	3.516	31.097	73	2.308	31.547	70	3.677	39.668	73	37.627	C12	
71	漳州	福建省	華南	38.400	58	3.549	35.497	69	2.284	35.347	68	3.760	47.083	65	37.625	C13	
72	東莞市区	広東省	華南	64.640	28	3.621	45.146	54	2.595	15.149	87	3.625	34.935	78	37.539	C14	
73	温州	浙江省	華東	59.241	34	3.558	37.396	67	2.368	30.647	72	3.486	29.265	88	37.429	C15	
74	佛山	広東省	華南	70.072	22	3.462	25.797	80	2.281	34.797	69	3.609	34.328	79	36.418	C16	
75	中山	広東省	華南	45.748	50	3.581	38.946	63	2.356	27.997	75	3.581	32.569	85	35.725	C17	
76	汕頭	広東省	華南	33.099	63	3.481	27.947	76	2.214	43.296	61	3.698	38.919	75	34.970	C18	
77	昆明	雲南省	西南	55.204	39	3.457	26.797	77	2.364	29.647	73	3.782	46.867	66	34.924	C19	
78	東莞石碣	広東省	華南	64.640	28	3.444	26.247	79	2.358	29.197	74	3.600	33.816	81	34.027	C20	
79	広州市区	広東省	華南	91.237	03	3.471	26.447	78	2.604	15.649	85	3.503	27.825	89	33.133	C21	
80	西安	陝西省	西北	75.413	17	3.444	23.898	84	2.560	17.348	83	3.767	45.759	67	32.939	C22	
81	長沙	湖南省	華中	76.139	16	3.400	22.498	85	2.485	21.398	80	3.569	31.574	87	31.575	C23	
82	九江	江西省	華中	33.592	62	3.550	35.247	70	2.436	23.198	78	3.588	33.951	80	31.189	C24	
83	瀋陽	遼寧省	東北	84.718	07	3.204	11.249	92	2.547	18.548	82	3.914	54.237	51	30.907	C25	
84	深圳市区	広東省	華南	82.125	10	3.277	14.499	88	2.641	13.599	89	3.682	39.069	74	28.058	C26	
85	贛州	江西省	華中	40.238	54	3.407	24.548	82	2.589	16.348	84	3.658	38.439	76	26.525	C27	
86	襄樊	湖北省	華中	36.894	60	3.496	30.197	74	2.745	10.849	90	3.612	36.983	77	26.415	C28	
87	東莞厚街	広東省	華南	64.640	28	3.186	12.049	89	2.475	21.198	81	3.590	33.544	82	25.907	C29	
88	莆田	福建省	華南	30.437	65	3.451	25.198	81	2.604	15.549	86	3.694	40.201	72	25.339	C30	
89	吉安	江西省	華中	31.499	64	3.366	23.898	83	2.605	14.699	88	3.579	32.729	84	23.603	D01	
90	惠州	広東省	華南	46.687	47	3.267	15.349	87	2.474	22.848	79	3.378	23.013	90	23.449	D02	
91	深圳宝安	広東省	華南	82.125	10	2.977	6.649	94	2.864	7.999	93	3.200	19.876	91	20.360	D03	
92	深圳龍崗	広東省	華南	82.125	10	2.940	6.499	95	3.023	5.000	96	3.075	16.703	93	18.924	D04	
93	江門	広東省	華南	40.062	55	3.201	11.799	90	2.700	10.549	91	3.065	16.020	94	16.296	D05	
94	太原	山西省	華北	55.266	38	2.898	5.250	97	2.875	8.499	92	2.919	13.623	96	14.983	D06	
95	長春	吉林省	東北	71.852	21	2.661	3.050	98	3.203	4.050	97	2.753	8.665	98	14.512	D07	
96	貴陽	貴州省	西南	46.178	49	3.040	7.599	93	2.860	7.799	94	2.980	13.702	95	14.362	D08	
97	北海	広西	西南	27.188	66	3.191	11.249	91	2.938	6.099	95	3.159	19.371	92	13.313	D09	
98	ハルビン	黒龍江	東北	69.830	23	2.528	2.200	99	3.590	1.700	99	2.350	2.088	99	12.178	D10	
99	宜昌	湖北省	華中	38.818	56	2.941	5.999	96	3.272	3.250	98	2.852	11.184	97	10.875	D11	
100	蘭州	甘肅省	西北	40.894	53	2.283	1.000	100	3.661	1.300	100	2.344	1.664	100	7.174	D12	

やや推薦する都市

しばらくは推薦しない都市

資料出所：本調査整理

表 15 2010《TEEMA 調査報告》産業別都市総合実力ランキング

①ハイテク産業 (N=978)			②従来型産業 (N=1,051)			③サービス産業 (N=247)		
順位	都市	評価	順位	都市	評価	順位	都市	評価
①	蘇州昆山	93.615	①	蘇州昆山	93.960	①	上海市区	90.811
②	天津滨海新区	90.941	②	杭州蕭山	93.248	②	蘇州市区	90.739
③	南京江寧	90.414	③	南 昌	92.035	③	南京市区	90.080
④	蘇州工業区	86.753	④	蘇州工業区	89.128	④	青 島	87.724
⑤	上海閔行	85.948	⑤	天津滨海新区	87.480	⑤	成 都	87.331
⑥	無錫宜興	85.519	⑥	寧波北侖	87.352	⑥	蘇州昆山	86.980
⑦	アモイ島外	82.868	⑦	重 慶	87.114	⑦	大 連	86.299
⑧	杭州蕭山	82.263	⑧	アモイ島外	86.985	⑧	無錫市区	85.001
⑨	北京亦莊	81.980	⑨	蘇州張家港	86.284	⑨	杭州市区	84.262
⑩	淮 安	79.983	⑩	上海閔行	84.766	⑩	広州天河	82.233

資料出所：本調査整理

センターにすることを旨とする「2つのセンター構想」を打ち出した。これが上海市におけるサービス産業のアウトソーシング発展促進により有利となっている。また、蘇州はサービス産業の発展に力を入れており、サービス産業が都市の構造転換と高度化をけん引することを期待している。蘇州統計局の資料（2010）によると、同地域における2009年のサービス産業の生産総額は14.5%の増加であった。蘇州は現在、サービス産業と文化産業の多産業発展計画の推進に力を入れており、近代的なサービス産業経済都市になることを目指している。南京市は、豊かな文化と豊富な観光資源を持っている。南京統計局の資料（2010）によると、2009年のサービス産業の生産総額は13.5%の増加であった。ビジネス・貿易、金融・保険、旅行、物流、不動産の5大分野が、南京のサービス産業の成長をけん引している。また、周辺都市へのサービス産業の拡張をもたらしており、サービス産業の今後の発展は極めて潜在力が高い地域となっている。

③ 2009-10《TEEMA 調査報告》都市推薦ランクの変遷分析

2009年と2010年の都市総合実力と推薦ランクを総合的に比較した結果、次のような結論が導き出された。

- 2010《TEEMA 調査報告》の評価対象都市の区分：2010《TEEMA 調査報告》で行った都市区分は次のとおり。(1)蘇州市：蘇州工業区、蘇州新区、蘇州市区、蘇州吳江、蘇州昆山、蘇州張家港、蘇州常熟、蘇州太倉(2)上海市：上海市区、上海閔行、上海嘉定、上海松江、上海浦東(3)東莞市：東莞市区、東莞厚街、東莞石碣、東莞虎門、東莞長安(4)寧波市：寧波市区、寧波北侖、寧波餘姚、寧波奉化、寧波慈溪(5)深圳市：深圳市区、深圳宝安、深圳龍崗(6)無錫市：無錫市区、無錫宜興、無錫江陰(7)武漢市：武漢武昌、武漢漢口、武漢漢陽(8)杭州市：杭州市区、杭州蕭山、杭州餘杭(9)福州市：福州市区、福州馬尾(10)アモイ市：アモイ島内、アモイ島外(11)南京市：

南京市区、南京江寧(12)北京市：北京市区、北京亦莊(13)天津市：天津市区、天津滨海新区(14)嘉興市：嘉興市区、嘉興嘉善。

2.2009-10《TEEMA 調査報告》の評価対象都市の変動：2010年に《TEEMA 調査報告》の評価対象都市に加えられたが、2009年は対象外だったのは7都市で、(1)日照(2)保定(3)杭州餘杭(4)嘉興嘉善(5)鄭州(6)襄樊(7)貴陽である。新たに変わった都市の多くは華東地区に位置しているのが分かる。しかし、2010年は地域経済の発展に伴い、華中、華北地区に位置する都市も徐々に台湾企業の注目を集めている。

3.2009-10《TEEMA 調査報告》の都市総合実力推薦ランクの変動：2009年と2010年の《TEEMA 調査報告》でいずれも【A】ランクの「極力推薦する都市」にランクインした都市は合計20都市であった。これは2010年調査で【A】ランクに位置づけられた都市の83.33%を占め、2009年調査の81.81%を上回った。2年連続で【B】ランクの「推薦価値のある都市」にランクインしたのは合計20都市で、2010年調査で【B】ランクに位置づけられた都市の58.82%を占め、2009年調査の51.85%を上回った。このことから【A】ランクと【B】ランクに位置づけられた都市の過半数は安定していることがわかる。また、2年連続で【C】ランクの「やや推薦する都市」にランクインしたのは23都市で、2010年調査で【C】ランクにランクインした都市の76.67%を占めた。最後に、2年連続で【D】ランクの「しばらくは推薦しない都市」にランクインしたのは10都市で、2010年調査で【D】ランクにランクインした都市の83.33%を占めた。

4.2009-10《TEEMA 調査報告》：【A】ランク都市

の変動：2009年と2010年の《TEEMA 調査報告》で同時に【A】ランクの「極力推薦する都市」にランクインした都市は、(1)蘇州昆山(A01)(2)天津滨海(A02)(3)南京江寧(A03)(4)南昌(A04)(5)上海閔行(A05)(6)蘇州工業区(A06)(7)杭州蕭山(A07)(8)青島(A09)(9)アモイ島外(A10)(10)蘇州市区(A11)(11)成都(A12)(12)無錫江陰(A13)(13)寧波市区(A14)(14)揚州(A18)(15)寧波北侖(A19)(16)北京亦莊(A20)(17)大連(A21)(18)蘇州新区(A22)(19)杭州市区(A23)(20)アモイ島内(A24)である。一方、2009年に【A】ランクにランクインされ、2010年は【B】ランクにダウンしたのは(1)無錫市区(A21→B05)(2)鎮江(A22→B07)だった。

5.2010年に新たに【A】ランクにランクインした都市：2010《TEEMA 調査報告》で初めて【A】ランクに入ったか、或いは【A】ランクに返り咲いたのは4都市で、内訳は(1)重慶(B01→A08)(2)南京市区(B14→A15)(3)上海市区(B10→A16)(4)済南(B09→A17)であった。これらの都市は2009年調査でいずれも【B】ランクの「推薦価値のある都市」に分類されていたが、2010年は【A】ランクにアップした。そのうち重慶は、上海浦東、天津滨海に続き、中国で3番目の国家級新区となった都市である。重慶の「两江新区」の発足は、中国の西部大開発計画の起動を意味し、重慶を西部大開発の重要な核心都市として、台湾企業の中国西部大開発進出に無限のビジネスチャンスを提供するものでもある。また上海市は、上海万博によって生み出された巨大な市場が、台湾企業が相次いで投資を行う要因となった。済南については、中国で近年発生している水道、電力、原油などの資源不足に加え、労働コストの上昇や、優遇政策が相次いで期限を迎えていることか

ら、台湾企業の関心も南方から北方へと徐々に移っている。しかし、済南が位置する山東省は、華東地区と華北地区という二大経済地域の隣接する場所であり、基礎産業の実力がしっかりしており、加えて対外的にも開放され、投資環境も改善され続けている。これが、済南が台湾企業の注目を集めている要因となっている。

6. 2009-10《TEEMA 調査報告》：【D】ランク都市の変動：2009と2010年の《TEEMA 調査報告》の調査結果によると、2年連続で【D】ランクの「しばらくは推薦しない都市」にランクインしたのは10都市である。内訳は、(1)惠州(D02)(2)深圳宝安(D03)(3)深圳龍崗(D04)(4)江門(D05)(5)太原(D06)(6)長春(D07)(7)北海(D09)(8)ハルピン(D10)(9)宜昌(D11)(10)蘭州(D12)である。注目すべきは、2009年調査で【D】ランクの「しばらくは推薦しない都市」とされた東莞虎門、東莞石碣、東莞厚街が、2010年はいずれも【C】ランクの「やや推薦する都市」にランクインした。2009年の金融危機に加え、中国では経済のマクロコントロールに関する一連の政策を実施した際、東莞市政府は積極的に台湾企業の構造転換と高度化を支援し、東莞市「転型升級聯合服務機構（モデルチェンジ総合サービス機構）」を設置し、10億人民元規模のハイテク専門基金を6つ作り、現地企業の発展を支援した。2010年6月24日、東莞市の李毓全・市長は「東莞市は企業の構造転換と高度化を支援するために少なからぬ政策を打ち出している。具体的な政策は36項目あり、加工貿易業者の構造転換と高度化を推進するプロジェクトなどが含まれている。今後5～10年間で加工貿易企業の製品構造の高度化、企業構造の高度化、産業構造の高度化、市場構造の高度化を実現することを目指している」と述べた。東莞市副市長の江凌氏も「今年も東莞

市は、昨年の支援政策を継続して執行する。また、より大きな力で、台湾企業がポスト危機時代を乗り越えることができるよう支援してきた」と述べている。広東省と東莞市政府の支援とサポートにより、台湾企業は金融危機を乗り越え、対外貿易から内需市場への転換を図っている。これが今回、東莞市が都市総合実力ランキングを上昇させた主要な理由である。

④ 2010《TEEMA 調査報告》：中国 10 大経済圏別総合実力ランキング

2010《TEEMA 調査報告》で導き出した100都市の都市総合実力の点数に基づき、各都市を中国の10大経済圏に分類し、各経済圏に位置する都市の加重評価点を平均した後、10大経済圏別総合実力ランキングを出した、結果は図1のとおり。

9. 中国「テーマ別 10 大優良都市」

《TEEMA 調査報告》では2006年以降、テーマごとに10大優良都市のランキングを作成している。台湾企業は自社の優位性を武器に、「外情を衡（はか）り、己力を量（はか）る」という思考戦略で、狙いを定めた都市に進出するとよい。2010年のテーマ別10大優良都市は表16のとおりである。

図1 2010《TEEMA 調査報告》10大経済圏別総合実力ランキング

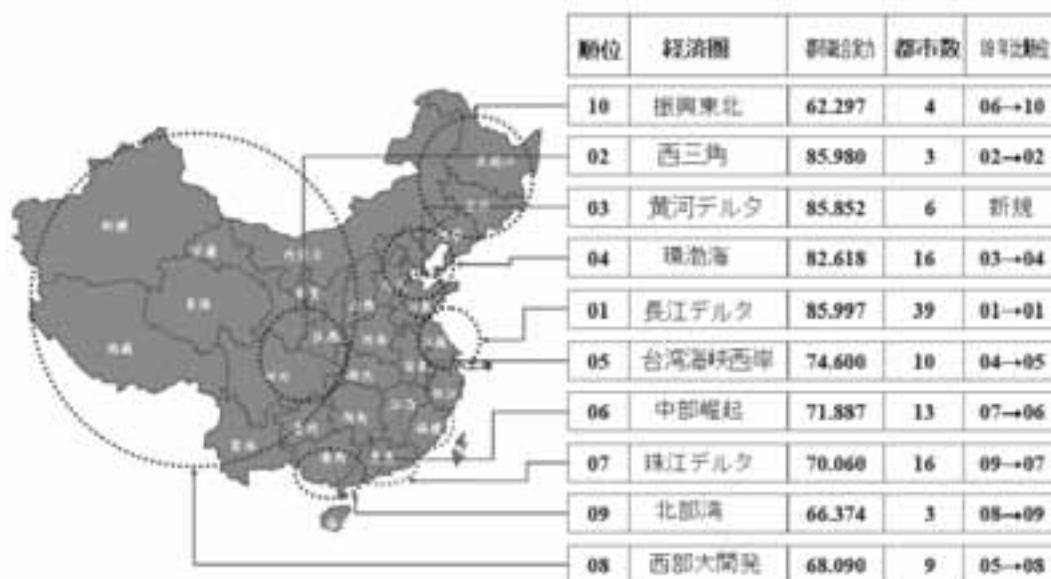


表16 2010《TEEMA 調査報告》テーマ別10大優良都市

項目別順位		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
1	現地政府の行政透明度	都市	蘇州昆山	上海市区	天津滨海新区	南昌	南京江寧	杭州蕭山	重慶	蘇州工業区	揚州	南京市区
	評価点	4.423	4.296	4.251	4.243	4.225	4.201	4.175	4.163	4.160	4.143	
2	台湾企業に対する約束の実現度	都市	蘇州昆山	南京江寧	天津滨海新区	杭州蕭山	南昌	上海閩行	蘇州工業区	済南	青島	アモイ島外
	評価点	4.403	4.315	4.293	4.271	4.268	4.241	4.238	4.210	4.182	4.158	
3	台湾企業のビジネストラブルの解決度	都市	蘇州昆山	上海閩行	杭州蕭山	南京江寧	天津滨海新区	青島	蘇州工業区	南昌	アモイ島外	蘇州市区
	評価点	4.349	4.246	4.227	4.215	4.211	4.196	4.179	4.169	4.152	4.102	
4	台湾企業関係者の安全度	都市	蘇州昆山	上海閩行	杭州蕭山	青島	鎮江	無錫江陰	南昌	南京江寧	蘇州工業区	アモイ島外
	評価点	4.334	4.284	4.254	4.236	4.229	4.194	4.180	4.179	4.177	4.159	
5	台湾企業の収益度	都市	蘇州昆山	南京江寧	杭州蕭山	蘇州工業区	アモイ島外	南昌	天津滨海新区	上海閩行	上海市区	寧波市区
	評価点	4.396	4.326	4.278	4.251	4.250	4.230	4.201	4.187	4.175	4.157	
6	金融環境の自由化度	都市	蘇州昆山	南京江寧	天津滨海新区	杭州蕭山	上海閩行	蘇州工業区	南昌	寧波市区	青島	上海市区
	評価点	4.307	4.272	4.234	4.217	4.200	4.181	4.163	4.157	4.150	4.148	
7	現地政府の台湾企業歓迎度	都市	南昌	蘇州昆山	上海市区	南京江寧	天津滨海新区	淮安	杭州蕭山	徐州	成都	蘇州工業区
	評価点	4.456	4.440	4.348	4.333	4.313	4.294	4.281	4.204	4.203	4.179	
8	誠意、道徳、価値観度	都市	蘇州昆山	南京江寧	上海市区	天津滨海新区	南昌	上海閩行	蘇州工業区	青島	煙台	泰安
	評価点	4.312	4.274	4.250	4.200	4.199	4.161	4.083	4.080	4.044	4.031	
9	国内販売市場の適合度	都市	上海市区	寧波市区	青島	杭州市区	無錫市区	アモイ島内	成都	蘇州昆山	揚州	無錫江陰
	評価点	4.431	4.416	4.279	4.246	4.232	4.222	4.201	4.190	4.187	4.186	
10	自主革新の重視度	都市	南京江寧	蘇州昆山	天津滨海新区	南昌	上海閩行	蘇州工業区	寧波市区	杭州蕭山	杭州市区	北京亦莊
	評価点	4.347	4.324	4.319	4.256	4.218	4.105	4.100	4.086	4.080	4.059	
11	台湾企業の知財保護度	都市	南京江寧	蘇州昆山	上海市区	天津滨海新区	南昌	蘇州工業区	上海閩行	揚州	青島	アモイ島外
	評価点	4.276	4.245	4.243	4.232	4.219	4.119	4.111	4.111	4.052	4.044	
12	自社ブランド奨励度	都市	蘇州昆山	杭州市区	南昌	南京江寧	天津滨海新区	上海市区	上海閩行	蘇州工業区	揚州	寧波市区
	評価点	4.419	4.360	4.353	4.310	4.263	4.257	4.136	4.125	4.105	4.074	
13	構造転換・高度化の支援度	都市	上海閩行	蘇州昆山	南京市区	東莞市区	上海嘉定	廊坊	杭州市区	南昌	無錫江陰	嘉興嘉善
	評価点	4.364	4.316	4.059	4.023	3.944	3.939	3.917	3.870	3.867	3.867	
14	兩岸企業のアライアンス支援度	都市	南京江寧	上海閩行	上海市区	南京市区	淮安	煙台	威海	無錫市区	蘇州昆山	日照
	評価点	4.432	4.059	3.970	3.848	3.820	3.806	3.800	3.792	3.781	3.722	
15	戦略性新興産業の奨励度	都市	南京江寧	蘇州昆山	南昌	杭州市区	天津滨海新区	上海市区	上海閩行	石家莊	重慶	淮安
	評価点	4.273	4.181	4.155	4.142	4.083	4.048	4.035	4.011	4.000	3.983	
16	省エネ・汚染物質排出削減奨励度	都市	上海市区	蘇州昆山	南昌	上海閩行	南京江寧	天津滨海新区	揚州	杭州市区	蘇州工業区	寧波市区
	評価点	4.513	4.162	4.094	4.075	4.051	4.038	4.028	4.013	3.982	3.982	